

氏名	高崎 博司	部署	理学療法学科	職名	准教授
研究分野	運動器理学療法				
学位	博士（理学療法学）				
学歴	2004年札幌医科大学理学療法学科、6年札幌医科大学大学院修士課程保健医療学研究科徒手療法学				
経歴	2013年クイーンズランド大学博士研究員、14年埼玉県立大学理学療法学科講師、17年埼玉県立大学理学療法学科准教				
所属学会（役職）	日本理学療法士協会、日本整形外科スポーツ医学会、日本徒手理学療法学会（理事）、埼玉アスレチックリハビリテーション研究会（理事）、専門リハビリテーション研究会、International Association for the Study of the Pain				

【2020年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Development of the Working Alliance Inventory-Short Form Japanese version through factor analysis and test-retest reliability.	共著	あり	○	Theory Pract ; 36(3)	Takasaki H, Miki T, Hall T.	2020.3
2	Concerns related to the accurate identification of anterior derangement syndrome in mechanical diagnosis and therapy for low back pain: A case report.	共著	あり	○	Theory Pract ; 36(4)	Takasaki H, May S.	2020.4
3	Does the Keele STarT Back Screening Tool Contribute to Effectiveness in Treatment and Cost and Loss of Follow-Up of the Mechanical Diagnosis and Therapy for Patients with Low Back Pain?	共著	あり	○	agnostics ; 10(8) ; P.5	Tsuge T, Takasaki H, Toda M.	2020.7
4	Ability of Therapists Trained in Mechanical Diagnosis and Therapy to Guess Pain Catastrophizing and Kinesiophobia Scores for Patients with Low Back Pain.	共著	あり		rapy and Rehabilitation	Suzuki K, Takasaki H.	2020.8
5	Earlier onsets in internal oblique and gluteus maximus muscles during leg raising in Functional Movement Screen Score 3 than Score 1.	共著	あり		Rehabil ; 16(4) ; P.3	Takasaki H, Kawazoe S, Wahara T, Goto A.	2020.8
6	Earlier onsets in internal oblique and gluteus maximus muscles during leg raising in Functional Movement Screen Score 3 than Score 1.	共著	あり		Rehabil ; 16(4) ; P.3	Takasaki H, Kawazoe S, Wahara T, Goto A.	2020.8
7	Normative ability to control the lumbopelvic curvature during active knee extension in sitting in young females.	共著	あり		s Ther Sci ; 32 ; P.57	Takasaki H, Yanagisawa M.	2020.9
8	Does the replication technique in proprioceptive neuromuscular facilitation enhance joint repositioning acuity more than repeating active knee flexion/extension in healthy individuals: A pilot quasi-randomized controlled trial.	共著	あり		hual Physical Therap	Konno S, Kikkawa K, Fujishima D, Suzuki K, Takasaki H.	2020.10

9	Habitual posture and weekly time spent in sitting do not contribute to lumbopelvic curvature during active unilateral knee extension in sitting test.	共著	あり		her Sci ; 32(10) ; P.6	Takasaki H, Kikkawa K, Hall T.	2020.10
10	Deep neck flexors impact rectus abdominal muscle in active straight leg raising	共著	あり		Phys Ther ; 15(6) ; P.6	Takasaki H, Okubo Y.	2020.12
11	Cross-cultural adaptation to Japanese of the Healthcare Providers Patient-Activation Scale.	共著	あり		her Sci ; 32(12) ; P.8	Miyamoto S, Takasaki H.	2020.12
12	Reliability of ultrasound measurement for isolated control of the transversus abdominis muscle during abdominal hollowing: a secondary analysis.	共著	あり	○	nyogr Kinesiol ; 55 ; P.6	Takasaki H, Kawazoe S.	2020.12
13	A Japanese version of the Patient Attitudes and Beliefs Scale for patients with musculoskeletal disorders.	共著	あり	○	theory Pract ; 36(12) ; P.6	Takasaki H, Hall T.	2020.12
14	Active straight leg raising (ASLR) competency improves with reverse-ASLR exercises and not repeating ASLR exercises.	共著	あり		c Rehabil ; 17(1) ; P.6	Takasaki H, Kawazoe S.	2021.2

(3) 学会発表

	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	Neck Disability Index と日常生活活動を指標とした肩こり質問紙の肩こりによる日常生活活動障害に対する内容妥当性の検討：patient elicitation technique を用いた半構造化インタビュー調査.	共同	第116回理学療法科学学会、成田	夏目皓平○、半田祐介、高崎博司	2021.2
2	腰痛有症者と健常者における動的な体幹コントロール検査の信頼性に関するシステムティックレビューを行う妥当性があるか	共同	第26回日本徒手理学療法学会、小田原	吉川和希○、千葉弘樹、高崎博司	2021.3
3	フットボールにおいてどのようなシーズン前の因子がシーズン中の怪我や欠場を予測できるか：システムティックレビューによる質的統合	共同	第27回日本徒手理学療法学会、小田原	北村智也○、渡邊健人、高崎博司	2021.3
4	Functional Movement Screening System における自動下肢伸展上スコア1と3の者における表層体幹伸筋群の筋活動様式の違い - Pilot Study -	共同	第28回日本徒手理学療法学会、小田原	藤島大希○、吉川和希、金野賢、鈴木克弥、高崎博司	2021.3

(4) その他

	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	招待講演 「Stratified care model の考え方」	単独	第26回日本徒手理学療法学会 国際医療福祉大学 小田原	高崎博司○	2021.3

2. 競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間

1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究）	腰痛による労働者の出勤状況と医療費支出に影響する二次予防戦略を含む因子の特定	研究代表者	2019.4～2022.3
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	運動器障害治療学特論（大学院）	○	16	運動器理学療法マネジメントに関する最新知見を紹介した
2	理学療法研究法		2.5	研究倫理申請書の書き方を指導した
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床推論演習	○	8	クリニカルリーディングについて講義・演習を行った
2	徒手理学療法学	○	8	徒手療法テクニックの演習を行った
3	物理療法学実習		4	徒手的牽引や軟部組織モビライゼーションの指導をした
4	日常生活指導実習		32	A D L 動作指導の方法を指導をした
5	理学療法特別演習		1	運動学領域の国家試験対策を行った
6	理学療法セミナー（OSCE1）		1	O S C E の試験を行った
7	理学療法セミナー（OSCE2）		1	O S C E の試験を行った
8	リハビリテーション学演習（運動器障害治療学）（大学院）	○	32	運動器理学療法マネジメントの方法を演習した
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習		2020.9～2020.10	オンラインでの学内課題のファシリテーターをした
2	臨床教育実習Ⅰ		2020.2～2020.3	学生評価と実習後の振り返りを行った
3	臨床教育実習Ⅱ		2020.9～2020.10	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った
4	臨床教育実習Ⅲ		2020.8～2020.9	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った
5	臨床教育実習Ⅳ		2020.10～2020.11	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2020.4～2021.3	主指導 9名	副指導 名
2	修士論文	2020.4～2021.3	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 2名
3	博士論文		主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	21期 学年担任	2020.4～2021.3	学生の生活・学習・進路相談	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	第26回日本徒手理学療法学会特別講演	日本徒手理学療法学会	「Stratified care model の考え方」	2021.3
2	令和2年度 国際スポーツ競技対策委員会 WEB研修会	埼玉県理学療法士会	国際競技大会（ボート競技）における感染予防ガイドラインと具体的対策	2021.1
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	埼玉県理学療法士会	国際スポーツ競技対策委員		2016.10～現在
2	The McKenzie Institute International	MII Research Advisory Committee		2017.1～現在
3	日本徒手理学療法学会	理事		2017.4～現在
4	埼玉アスレチックリハビリテーション研究会	理事		2017.4～現在
5	日本理学療法士協会	頸部痛理学療法診療ガイドライン作成委員		2017.6～現在
6	日本理学療法士協会	ガイドライン・用語策定委員会 アドバイザー		2018.3～現在
7	日本徒手理学療法学会	徒手理学療法雑誌編集委員		2018.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	専門リハビリテーション研究会	専門リハビリテーション研究会第20回学術大会準備委員長	2019.4～現在
2	国際協力事業	Musculoskeletal Science and Practice	論文の査読	2019.4～現在
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	倫理委員会		2019.4～現在
2	全学的委員会及びセンター業務等	入試実施部会		2019.4～現在
3	大学広報活動	オープンキャンパス 学生相談サポート		2019.4～現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				